

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2619 号

A retrospective study of cancer-related stroke treated with mechanical thrombectomy

機械的血栓回収療法を行ったがん関連脳梗塞の後方視的研究

石元 玲央 (いしもと れお)

博士 (医学)

論文内容の要旨

悪性腫瘍の存在下では、血栓塞栓症を発症しやすいことは広く知られている。特に脳主幹動脈塞栓症は、がん患者の自立度に大きく影響するため、がん治療における臨床的重要性が高まっている。近年、脳主幹動脈閉塞症に対して、静脈内血栓溶解療法に加え、機械的血栓回収療法の有効性が注目されているが、がん患者に対する機械的血栓回収療法の適応については明らかではない。

本研究は、脳主幹動脈塞栓症を発症したがん患者の患者背景と、機械的血栓回収療法の適応となりうる患者層を明らかにすることを目的とし、がん診療に注力し血栓回収療法が常時施行可能ながん診療連携拠点病院において実施された。

2013年4月から2022年3月までの間に機械的血栓回収療法を行った症例のうち、がん患者と非がん患者の2群にわけ、90日後の転帰、患者背景、閉塞血管、血液検査所見、血栓回収手技を比較検討した。対象となったのは72人で23人ががん患者であり、非がん患者49名であった。2群において血栓回収療法の手技および90日後の転帰に有意差はなかったが、がん患者群で症候性脳内出血が有意に多かった(P value =0.01)。興味深いことに、心房細動はがん患者群において統計学的有意差をもって少なかった(P value=0.005)。

本研究は、がん患者における脳主幹動脈塞栓症は、がん患者の深部静脈血栓症のリスクや、一般的脳塞栓症が有するリスクとは異なる患者背景を有することを示した言える。